◎南伊豆下田須崎港発→新島沖

最高ランクのブランド魚 南伊豆のキンメダイ好況

本誌APC（東京）／椎名義徳 Yoshinori Shiina

南伊豆下田須崎港の宝栄丸のホームページの釣り物案内を見ると、キンメダイのことを〝地キンメ〟と称していることにお気付きの方も多いであろう。

しかし、地キンメの意味を深く知っている方は意外に少ないようだ。市場では伊豆半島で水揚げされるキンメダイを地キンメ、島キンメ、沖キンメと漁場により分けて呼ぶ。本州と大島や新島の間の特定海域で漁獲されたものを地キンメ、神津島～八丈島海域のものは島キンメ、八丈島より外洋のものを沖キンメと呼んでいる。

同じキンメでありながらこうして区別されるということは漁獲される漁場によって食味が異なるわけで、とりわけ地キンメは脂の乗りも抜群で最高の食味。

市場価値ランクは日本各地で水揚げされるキンメの中でも頂点に君臨。一般のスーパーはもちろん、地元の鮮魚店の店頭でさえお目にかかることがまれな超高級ブランド魚なのだ。

▲新島沖のキンメは食味も釣り味も満点

1投目から本命登場

宝栄丸に向かったのは1月13日。久しぶりのナギの予報とあって平日にもかかわらず、地キンメを追い求める釣り人で2隻出しのにぎわいぶり。私を含む5名が伊藤壮章船長が舵を握る7号船に乗船。私は船長の指示で右トモの配席となった。

4時50分に出船。釣り場の新島沖海域には6時過ぎに到着。開始時刻の6時20分までの間に、あらかじめエサを付けて掛け枠に巻いた20本バリの仕掛けと2キロの鉄筋オモリをセットする。

1投目のポイントは根のてっぺん。

「やりますよ！　仕掛けを持って構えてください」とのアナウンスに続き、ミヨシからナウンスに続き、ミヨシから順番に名前が呼ばれ投入の指示が出される。

「350メートル。底に着いたら軽く道糸を張ってアタリを待ってください」

オモリが底から浮かない程度のテンションを保ちながら少しずつ道糸を送り出していくとガクガクとアタリ到来。道糸を送り出し続けている間にもアタリは続いたので、そこそこの数が期待できそうだ。

ミヨシから順に巻き上げが開始され、巻き上げスイッチを入れると竿が大きく曲がり込みリールがうなりを上げる。

オモリが根掛かりしているので、リールの巻き上げをいったん止め、ドラグをフルに締め込む。

捨て糸が切れて極限まで曲り込んでいた竿がフーッと起き上がったところで巻き上げ再開。

ミヨシ寄りは空振りだったようだが、トモ2番の秋山さんの竿には魚が暴れる抵抗が伝わっている。暗い海中から舞い上がってきたシルバーピンクの魚影は3つ。800グラム前後のキンメが無事取り込まれた。

続いて私の仕掛けが上がり、1キロ級を交え4枚のキンメをゲット。しかし、仕掛けの下半分がロストしていたのでちょっと残念。

2投目のポイントは壁のような急斜面。

「430から350メートルまで一気に登るよ。道糸は送り出さず張ったまま。オモリが根掛かって切れたらゆっくり巻き上げていってください」

断崖絶壁の海底をノーシンカーでトレースしていくイメージだ。捨て糸が切れ、テンションがなくなった道糸をゆっくりと巻き取りながら上げていくとグングンッときて小ぶりのキンメを1枚追加。ミヨシ側の金沢さん、河野さんも1枚ずつゲットした。

3投目は水深430～500メートルまでの下り斜面。道糸をどんどん送り込みながらアタリを得たが、途中でバレてしまったようだ。

多点掛け連発

4投目の水深480メートルの緩やかなカケ上がりでは、「船が下がったときに道糸が少したるむくらいの感じで延ばしてみて」とのアナウンス。

いい感じでアタリが出て、650メートルまで道糸が出たところで巻き上げ開始。

ここで私は4枚ゲット。うち2枚は1.5キロ級の地キンメと呼ぶにふさわしいグッドサイズだ。

同じ場所を流すと、私とミヨシ2番の河野さんの前方の海面に3キロ級のアコウが浮上。河野さんは最高のゲストを取り込み喜色満面。

6投目のポイントは水深480メートルの平場。

ここではサイズがややダウンしたものの、ミヨシの金沢さんが5点掛け、トモ2番の秋山さんが6点掛け、ここまでアタリを得ていなかった胴の間の神永さんもキンメを上げる。

7投目も同じ場所を流し、私は5枚を追釣。

ラストは船内本命は空振りだったが、金沢さんがノドグロカサゴを取り込み本日の釣りを終えた。

「今日は潮が今イチでした。毎回オモリが取られるような潮ならもう少しアタリも出たと思います」と船長。

それでも船中釣果は2～17枚。欲をいえば2キロを超えるメガサイズを拝みたかったが、私は1.5キロを含め17枚ものブランドキンメを持ち帰ることができ、うれしすぎる釣行となった。

当日は根のてっぺん、壁、下り斜面など様ざまな地形の場所を流したが、その都度アナウンスされる伊藤船長の指示はとても分かりやすく、ときに釣り人の横についてアドバイスする親切ぶり。ビギナーでも安心して指南いただける船長といえよう。

宝栄丸ではタックル一式とエサ付きの一日分の仕掛けがセットになったオールレンタルプランもある。深海釣りビギナーも臆することなくチャレンジしていただきたい。

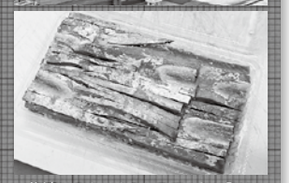
▲3キロ級のアコウも上がった

知っ得！ Tips and Tricks エサの入手は下田漁具で！

▶下田漁具はエサだけでなくキンメ用の仕掛けも販売

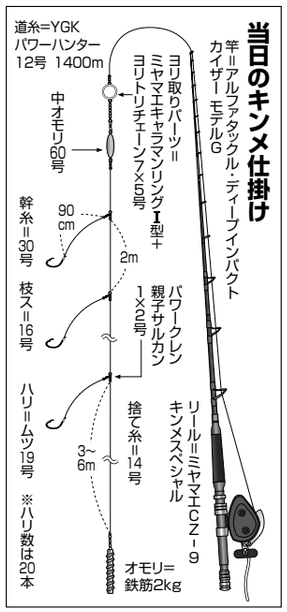
キンメ釣りで使用するエサはイカやサバ、カツオのハラモなどが一般的だが、食いのよさやコスト面など、トータル評価をするとカツオのハラモが一番。しかし、一般の鮮魚店や釣具店での取り扱いはほとんどなく入手は困難。ではどこで入手するのか？　ネット通販で購入という手もあるが、販売単位が大きく、大型冷凍ストッカーでもない限り保管が難しいのが実情。

私はいつも下田市内にある下田漁具で購入している。カット済みのものが1パック1キロ1800円。一日分の使用量としては十分。これなら家庭用の冷凍庫でも保管できる。南伊豆のキンメ釣りの帰りにここへ寄って次回分のエサを購入していく釣り人も多い。


▲塩漬けのカツオのハラモ1キロ入り

●しいな　よしのり／歳のせいか寝覚めが早くなったが、楽しみがひとつ増えた。早朝4時から放映されている暴れん坊将軍の再放送を観ること。ハマってます。

当日のキンメ仕掛け



•Tackle Guide

キンメ釣りは事前準備が重要。仕掛けは必ず8組用意。1投ごとの使い捨てとするならば、あらかじめ全部の仕掛けにエサを付けて持参すること。

▼1キロ級のキンメがズラリ

◉船宿information

伊藤 壮章船長

南伊豆下田須崎港
宝栄丸
☎0558・22・1047
（詳細は巻末の情報欄参照）

▶料金＝地キンメ乗合一人2万円（氷付き）、オールレンタルセットプラン3万2000円
▶備考＝予約乗合、出船時間は電話確認。ほかオニカサゴ＆アラ、マダイ＆イサキへも出船